

2月

県議会ニュース

日本共産党県議団です

びぜん光正 県議が2月21日、2月県議会（2/13～3/8）一般質問に立ちました。質問と答弁の要旨を紹介します。



＊＊ JR東日本のダイヤ改正等について ＊＊

びぜん 「特急あずさ」の県内停車本数の大幅削減が突然発表され、沿線住民の利便性はもとより、地域の経済・観光への影響が危惧されている。沿線自治体と連携し、JR東日本に対し撤回を求めてほしい。

知事 地域の声を真摯に受け止めて対応するよう、引き続き関係市町村とともに強く求めたい。地域とJRの一層の連携、情報共有が進むよう取り組む。

びぜん 特急あずさの自由席や回数券の廃止は利便性が損なわれ、高速バスに旅客が流れ、乗客の確保や路線の存続が危ぶまれるのでは。

企画振興部長 利用者のニーズに合わせたサービスの提供を新たに検討するよう要請している。JRとともに沿線自治体が一体となった取り組みが必要だ。

＊＊ 産業廃棄物最終処分場について ＊＊

びぜん 塩尻市東山地区の産業廃棄物最終処分場について、誤った埋立量を計算して申請されたものを許可していたことが判明した。チェック体制の不備をどう捉え、今後いつまでどのような対応をしていくのか。

環境部長 H7年当時は十分なチェック体制がなく、審査専門の係もなかった為に担当者が1人で審査事務を行っていた。許可の有効性や事業者指導の方針等を含め、現在弁護士と相談しており、その結果を踏まえ適切に判断し、住民にもきちんと説明する。

びぜん 地元の環境対策委員会は、過大埋立てについて撤去を求めている。周辺住民の生活環境への影響が懸念されているが、何が埋められているのか確認が必要では。

環境部長 これまでの検査等で、許可品目でない産業廃棄物の埋立ては確認されず、埋立容量も許可の範囲内で、過大埋立てではない。水質検査も問題はないと考えている。

びぜん 過大ではないというが、対策委員会内での計測でも、軽微な変更を超える10.3%という数字も出ており、問題があると考ええる。

＊＊ 主要農作物等種子条例(仮称)について ＊＊

びぜん 今回の条例骨子案では、遺伝子組み換え作物の混入を防ぐ対策として、ガイドライン作成を検討するというが、どのような内容か。在来種との交雑により拡大する懸念も指摘されており、県民の不安を払拭するためにも、条例自体に盛り込むべきだ。

農政部長 骨子案の目的の部分に他品種との交雑を防止すること等により、優良な種子の安定供給を図る旨を盛り込んだ。2019年度中をめどに作成を検討する。

質問を終えて

特急あずさの問題では他会派議員と相談して、全会派一致で意見書を提出することができました。県議会としての声を示す事ができました。